令和4年8月21日

東京ビッグサイトハムフェア2022に参加して

佐々木　朗　JH8CBH

0　じゃあ、私がいきましょう。

ハムフェア、それも東京で行うイベント。「東京の人は近くていいなあ。」位にしか考えていなかった。今年もそう思っていた。ところが、ある時KCJ（全国CW同好会）のメーリングリストで、「1エリアの方どなたか、ブース当番お願いできませんか。」というメールが流れていた。しかし、返答が返って来る様子はない。「どうしよう。行きたいけど、現職の時みたいにお小遣いないし・・・。」でもその時点で、私の心は決まっていたのかもしれない。いつもの言葉である。「人生に悔いを残すのはしてしまったことではなく、しなかったことである。」いわゆる「迷ったらGO」というのである。「私で良かったら行きますけれど。」と返信したところ、事務局担当の平川JF1PMFさんから恐縮しながらも、快く私の申し出を受けて下さった。そうと決まれば、切符の手配宿の手配など、その日のうちに処理完了である。

1　ハムフェアは規模が違う、人の数が違う。

8 月 20 日土曜日の朝一番の新幹線で

東京へ向かう。この間の社員総会と全く同じパタンである。新橋からゆりかもめというちょっと変わった交通機関があるというのでそれに乗ることにした。レインボーブリッジ、ビルの真ん中にボールが挟まったようなフジテレビ、そして、東京ビッグサイト。駅を降りるととにかくやっぱりビッグ。名前位しか聞いたことのないところだったが、だだっ広い会場がいくつもあり、私達のハムフェアだけではなく、いくつものイベントが開催されていた。若者が多いなあと思っていたら、鉄道博のような催しも同時開始されていた。ハムフェアの南会場は、右手のずっと奥。羽田空港で函館行きに乗るのに歩く歩道を何本も乗っていく、あれと全く同じ感じだった。会場は 80 メートル×50メートルぐらいはありそうな広さだった。

JARL,JARD,各無線機メーカー、アンテナメーカー、無線関係書籍出版社などが、いわゆるプロの展示という感じで出品。そして、無線機販売のお店、各専門クラブなどの展示説明、ジャンク品販売など50、60のブースはあったと思う。

早速 KCJ のブースについてすぐに当日来たメンバーが集まって 12 時の記念写真。11 時 4 分に東京駅に着いて何とか間に合ったことにある。みんな北海道から来た私を歓迎してくれた。その後、責任者の平川さんと一緒に食事。「すごい人ですね。」と私が興奮しながら言うと、

「前回は人がすれ違うのがゆるくない位来ていました。ブースの数も今年は前の3 分の2ぐらいかな。」と話していました。ご挨拶と打ち合わせをしながら食事をして午後から説明開始である。

2　好きな人には帰属意識、これからの人には実践者としてのアドバイス

ハムフェアで人がたくさん来るからと言っても、黙って座っていると、人はただ通り過ぎていく。私はとにかく人を見ていた。この人は私たちのブースに興味があるか、CW に興味があるか。きちっと見ていると、私にはそれがわかる。「この人は興味がある。」と思ったら積極的に声をかけた。「電信をおやりになりますか。」返って来る次の言葉で、どんな対応をするか、さらっと「お気をつけて。」で終わるか、話に引き込んでいくか、判断する。

CWバリバリの方は、私と一度も交信したことのない方の方が稀である。「函館から来ましたJH8CBH佐々木と申します。」で、だいたい「やったことありますよね。」ということになるし、記憶力が相当悪くなった私も何十回も交信していれば、さすがにコールに聞き覚えもあるというものである。普段はほとんどが599 TUだけの交信だが、この時ばかりは話が弾む。アンテナの話、コンディションの話、KCJの話、後継者の育成、CWの指導、和文をどうするか、国家試験から電気通信術がなくなったことの嘆きまで、モールス談義に花が咲くというもものである。

「これから。」、「やり始めたところです。」という方には、「CQを聞いて相手のコールが取れたら、もう思い切って呼んじゃいましょう。」というアドバイス。打つのはぶっちゃけ「DE　コールサイン」と「599 TU」で用が足りる。これだけでもやった人とやろうかなと思ってやっていない人では、モールスに対する自信はかなりの差になるものである。また、これからの人には、独力でやるのもいいけれども、よき先輩を見つけるのがいいこと。また、手前味噌ながら、私のコールサインで検索して、ZOOM講習会の記録をなぞってみることを勧めたりした。

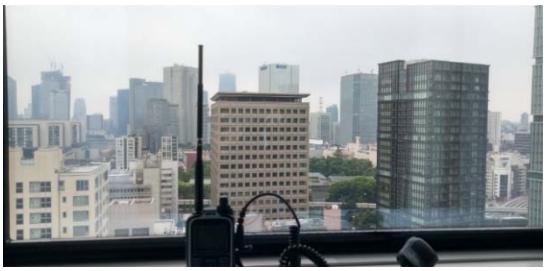
二日間で30名以上には、モールスの楽しさを語ったことになる。ブースに来てくださった方にとっては、数ある中の一つのブースに過ぎないが、KCJ（全国CW同好会）のブースに来たことが、CWを始めたり、上級試験を受けたりするきっかけになったりすれば、私としては東京まで行った甲斐があるというものである。

KCJでは、折しも先週のオンエアミーティングにおいても、キー局がいなくて困っているということからキー局を引き受け、1.9 から 50 メガまで担当させていただいた。9 バンド、私と交信していただいた方もおり、その話題でも、随分盛り上がってしまった。4時間以上、びっしりキーを叩いていたことになる。そんなお仕事も引き受けさせていただき、私としても会への帰属意識は高くなっていたところであっ

た。

KCJは、このように、私の中では、結構きちっとしている組織であるというイメージである。CWを楽しみ、広げることはもちろんであるが、法令をきちんと守り、紳士的に運用する団体である。組織のトップの方々ともたくさんお話したが、全くの新参者の私にも敬意を払っていただきながら、2 日間KCJの顔として、会のPRをさせていただいたことに、感謝しているところである。

3 ホテルで



ホテルに戻って私がすることはわかりますよね。はい、ご想像通り。無線である。「大都市はCQをかけても出てこない。」私の中で、そんな弱腰の気持ちを持って居いた。ホテルに着くと、フロントの方が「17 階です。」これだけで笑顔が出てしまった。さっそく430でCQ。すぐに応答あり。都内の方あり、ハムフェアで東京に来ている方あり、埼玉、千葉、神奈川からも声がかかりました。バッテリーの関係で、LOWにしてのオンエアだったが、ずっと途切れることなく呼ばれた。20 日の夜 19 局。21 日の朝は 15 局であった。

VUオンリーの方は、もちろんファースト。HFも出ているという方は、交信履歴のある方の方が多かったです。私の事をよく覚えて下さっている方もたくさんいた。自分が思っているより「有名人！」なのかなあとほくそ笑んでいた。KCJのブースにいることを知らせたら、何局かが丁寧にご挨拶に来てくださり、これもまた感激であった。

「大都会のVUは出てこない。」私の思い違いも甚だしかった。東京の皆さん、東京に集った皆さん、ありがとうございます。

4 2日目の午後

二日目はKCJのブースを午前中で閉じるということだった。二日目も正午に写真を撮って後始末をして、フリータイム。この時間を大切にしなければならない。ボケーっとして、ふわーっとして見ていてはいけないのである。

まず、とにかく情報を得ること。私の頭はただ一つ。アマチュアむせを活性させるために、人を、人の気持ちを動かせるためには、どんな企画が必要で、どのように組織を動かしていくかということである。もう一つは、人の動き。KCJにいる時は、お客様を迎える立場であった。今度

は客として、お客様を迎える立場であるブースの人の動きを見た。

(1)若い人たちへの働きかけ

私がいつも頭に置いていることの一つであるが、国際宇宙ステーションとの交信の企画、高校生や大学生のブース、そして、ボーイスカウトのブースなどに立

ち寄った。いろんなお話を聞いたが、他機関に働きかけていく時には周到な準備が必要であるということである。特に公官庁であれば、基本は、文書主義である。筋の通った企画書を、筋を通して申し出ることで、組織が動かせることを確信した。筋を通すということは、青少年の科学の芽を育てるという観点がきちんと具現化されているかどうかということである。それと、リーダーの行動力である。きちんと自分の思いを語れるか、人を説得することができるか、そして、青少年へうまく言葉がけができて、うまく動かせるか。そして、達成感を味わわせることができているかどうか。成功者の話をじっくり聞くと、その通りだと思いながら、自分がこれまでやってきたことも、まだまだ、詰めが甘かったところもあるなあと思った。

子どもは何にでも興味を示す。特に子どもたちの「なぜ」に上手に大人として対応し、単に正解を与えるだけではなく、なぜの答えを見つけた時の感動を味わわせるような手だてを考えていくことも大切だなあと思った。体験局、ラジオ作りなど、

我々も努力をしている。こちらが仕組んだことが、いかにして子どものたちの科学の芽を育てると同時に感動を与えられるようにするかが大切だと思った。

(2)防災関係

いくつかのブースでは防災に関する情報を掲示しているところがあった。関東のいくつかの支部のブースに立ち寄って、話を聞いてみた。アマチュア無線の社会貢献がクローズアップされている昨今なので、行政との連携も大切にしているということであった。また、地域クラブ単位での訓練が行われているところもあった。私達の支部と同じくレピータを使った訓練もあった。やはり、課題としては、何かあったら、またはあるかもしれないという時に、アマチュア無線の事が頭にあるかどうか、これがとても大きいようだ。渡島檜山の場合、非常通信ボランティアという一つの組織作りをし、希望者はベストなども作った。訓練もしている。函館市との連携のパ(イプも復活してきた。そういう点では、きちんと整理されている方ではないかと感じた。過日、大雨が降り、函館市でも冠水などの被害が発生してしまった。非常通信ボランティア、非常通信ボランティアであるという意識がその時働いたか、そんな検証も必要なのかもしれない。

(3)CW

KCJ のブースでの対応も含めるが、やってみようと思っている人は、私が思っているよりも多いように感じた。CQ 誌などでも特集が組まれていたなどもあり、「やってみたい」と思っている人は多いようだ。その一方、じゃあどうやって勉強していくか、で壁にあたっているようである。また、試験にも電気通信術があるわけではないので、いつまでに覚えるという縛りもない。「やりたい」また「やりたそうだ。」という方には、多少なりとも CW に慣れている者が、声をかけて面倒を見てあげることができればなあと思う。伝統の支部の

CW 講習会は、どうなるか計画は、まだ見えていないが、使命あれば取り組んでみたいなあと思っている。

それと、和文同好会の方ともだいぶお話した。どのように和文局の育成をしているかという私の問いには明確な答えが返ってこなかった。でも、それはいたしかたのないことだというのも私も理解できる。和文を楽しんでいる方の平均年齢はおそらく 70 歳を超えていると思う。このままでは、おそらくというか間違いなく絶滅する。では私がその任を負うか。教えるほど私にそのスキルがあるのか。「う・・・・ん。」である。また、「和文を覚えたい人、この指止まれ。」で止まる人がいるかどうか。私には答えの出せない課題だった。和文のオーソリティとお話して、ほぼ一致したのが、先ず欧文をしっかり、マスターすること。これは間違いなさそうである。

最後に、ちょっとおチャラけた話題になるが、モールス早聞きコンテストをやっていたでそのお話を。

ヘッドホンから流れて来たコールサインをキーボードで取るというのである。壁には今日のランキングが貼ってある。ちょっと遠慮はしたものの「是非」ということで、挑戦することにした。国内ばかりやっている私はJか7、もしくは8で始まると、まあ食いついてということになるが、何が出るかわからないコールサインなど取れるものではない。最初の数局はバッチリ。スピード上がるにつれてミスも多くなる。大恥をかいて終わった次第である。ところが何となんと、十何位かに入って、ランキングに私のコールサインが残ってしまった。あとから、「もう一回やればもっといったかも」などと思ってしまった。

(4)専門ブース

接客に忙しそうなブース、お話する雰囲気がないブースは立ち寄らなかったが、結構を多くのブースに立ち寄り話を聞いた。中身も相談が、組織体制や人の動かし方を学びたかった。ファックス関係、コンピュータを使った通信関係、アンテナ、自作、山岳、アワード、コンテスト。無線のことなら、初歩的なことなら、私もある程度は話についていけると思っているが、やっぱり専門的にやっている人はその道に究めている。さすがである。私のように単に交信を楽しんでいるのも一つのやり方だと思うが、一つの事に詳しいというのは、強みだし、アマチュア無線を長く続けるコツなのだなあと感じた。函館でも専門クラブがあり、積極的に活動している。クラブや組織というと、縛りを感じて敬遠される方も多いが、アマチュア無線の中でも得意分野を持つということの大切さを改めて感じた。同時に、地域クラブの再発足についても、やはり必要なのだろうなあということも感じた。

(5)メーカーブース

じっくり見ると欲しいものが出てきそうなので、さらっと回るにとどめた。憧れの FT dx101もちょっと触ってみた。いっぱいつまみがある。ディスプレーもかなりの多機能のようである。音の大きさと、CWの速さと、リットと、フィルタの幅程度しか、つ

まみをいじることのない私には、やっぱり使いこなせないという結論を無理やり出して、あこがれの FTDX101をほしがらないようにしようと思った。でも、あれほしいなというのが本音。

(6)ブースを見て感じたこと

私が展示を見ていても、仲間内でおしゃべりし続けているようなところは、さらっと通り過ぎてしまった。お菓子を食べながらやっているのもかっこよくなかった。目が合ったら、さっと声をかけて下さるブースでは話が弾む。厳しい言い方をすると全国の方が集まる場。それなりの接客対応を勉強した方がいいブースも結構見られた。

資料の準備やプレゼンテーションの仕方で、出展効果は格段に違ってくると思う。十分な打ち合わせをして、結果を出せるようにすることが大切だということを、回ってみて感じた。

5 最後に

社員総会も今回のハムフェアも、肌で感じるということが大切であるということは間違いない。「楽しかった。」も大切であるが、「何を学んだか。」も大切にしたい。頭を整理しながら、自分がアマチュア無線の発展にできることはないか、じっくり作戦を考え、実行していきたい。